

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

中学生の頃から薬剤師になりたいと思っていました。国公立大学の薬学部では、研究職に力を入れています。薬局希望なのと私立大学の中から選ばれました。その中でも同志社女子大学は留年率が低いのに国家試験の合格率が高いに思いました。打不中キャンパスに感じた雰囲気も決め手の一つです。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

推薦入試には評定も大事になります。推薦入試もどこに出すのか、はたまた出さないのか決まっています。なのでいい評定を取るために定期テストは頑張りました。普段は、授業は真面目に聞いていました。しかし、受験勉強にはあまり取り組んでいませんでした。そのかわりに、受験する可能性のある大学の受験科目などを調べ、必要な科目を絞りました。

[夏休み]

受験というものが、身近に感じ始めました。私は化学が大好きでした。模試でも20点くらいしか取っていませんでした。そんな私が薬学部に入るのか、薬学部に入ると進んで行けるのか、不安だらけで他学部への進学も考えました。そのため、夏休み中は他学部の大学について調べました。また、オープンキャンパスに参加できる最後のチャンスだと思い、薬学部を含む3つの大学のオープンキャンパスに参加しました。また夏休みから受験に必要な科目を3つに絞り、学校の夏期講習も必要のない科目は受講しませんでした。

[2学期～入試直前]

周りは推薦入試で合格する人がとても多かったです。なのでとても焦りました。11.12月頃まで志望学部には悩んでいましたが、いろんな人に相談して薬学部に行こうと決めました。それから苦学な化学の勉強を本音で取り組み出しました。まずは一問一答の問題集を2周くらいして、基礎を固めました。一問一答は昔科目でも取り組みやすく、基本のことは覚え直さなくて済みます。その後12月まではマーク式の大学の過去問を解きました。その後は受験する大学の逆転の大学が本下への過去問と今年までの過去問を間違えたものを見直し、似たものを探して解きました。過去問を解く時、分からなかった問題は分かるようになるまで友達や先生に聞きました。数学は得意だったので授業の丁寧な対策のみです。英語は様々な大学の過去問の文法・語法問題を解きました。出た文法語法は参考書にマークを引いていました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

まず、私は大事な時前によく風邪をひきます。そう考えると風邪をひくと聞いたので私は直ぐと思ふようにしてしまいました。そのおかげがほかかいませんが風邪をひきませんでした。テレビはどうしても見たいものは楽しみとして見ました。スマートフォンは寝る前に1.2時間くらい触っていたのですが、受験前はあまり触らないようにしていました。また触らないのもストレスになるので、勉強が嫌になたり、気分が下がったりした時は、10分くらい気分転換に便していました。しかも、勉強頑張ろうと思えないこともたくさんありました。そんな時はすぐに寝ていました。勉強を嫌々やることも楽しくない嫌いにならざるを得ない頑張りと思、下時しか勉強していません。最初は分からない問題ばかりだったので嫌にならざるを得ないのですが、この時期を乗り越えると解ける問題も増えてくるし、勉強も辛くない楽しんでいけます。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

自分かどうしても行きたいと思う大学が見つかるし自然と勉強頑張ろうと思えるので、志望校をちゃんと決まるといいと思います。受験勉強をしていく判定がよくなるか、周りの進路が決まったり、みんな点数がよくなる、たりあると不安にならざるを得ない。でも自分を信じ頑張ってください！受験私も、周りの多くは推薦が決まったり、直前まで判断も出さず迷ったか、諦めずに勉強したら合格できました。私もみんなも大丈夫です。